

万
知
世
妙
々
々
三
編
上
中
下

^ 13
2899
2止



門 へ 13
號 2899
卷 2

五十二号

昭和九年
七月五日
購末

今世鏡之編叙

鏡子ハ水ハ鏡セケシテ人ハ鏡ミテ水ハ鏡ミル

則ハ鏡ノ用ヲ見人ハ鏡ヲ別ル其意ハ新ト

墨子ト云リ貞觀政要ハ曰ク唐太宗朝ハ

臨ミテ歎ク曰ク銅ヲ以テ鏡トシテ衣冠ヲ

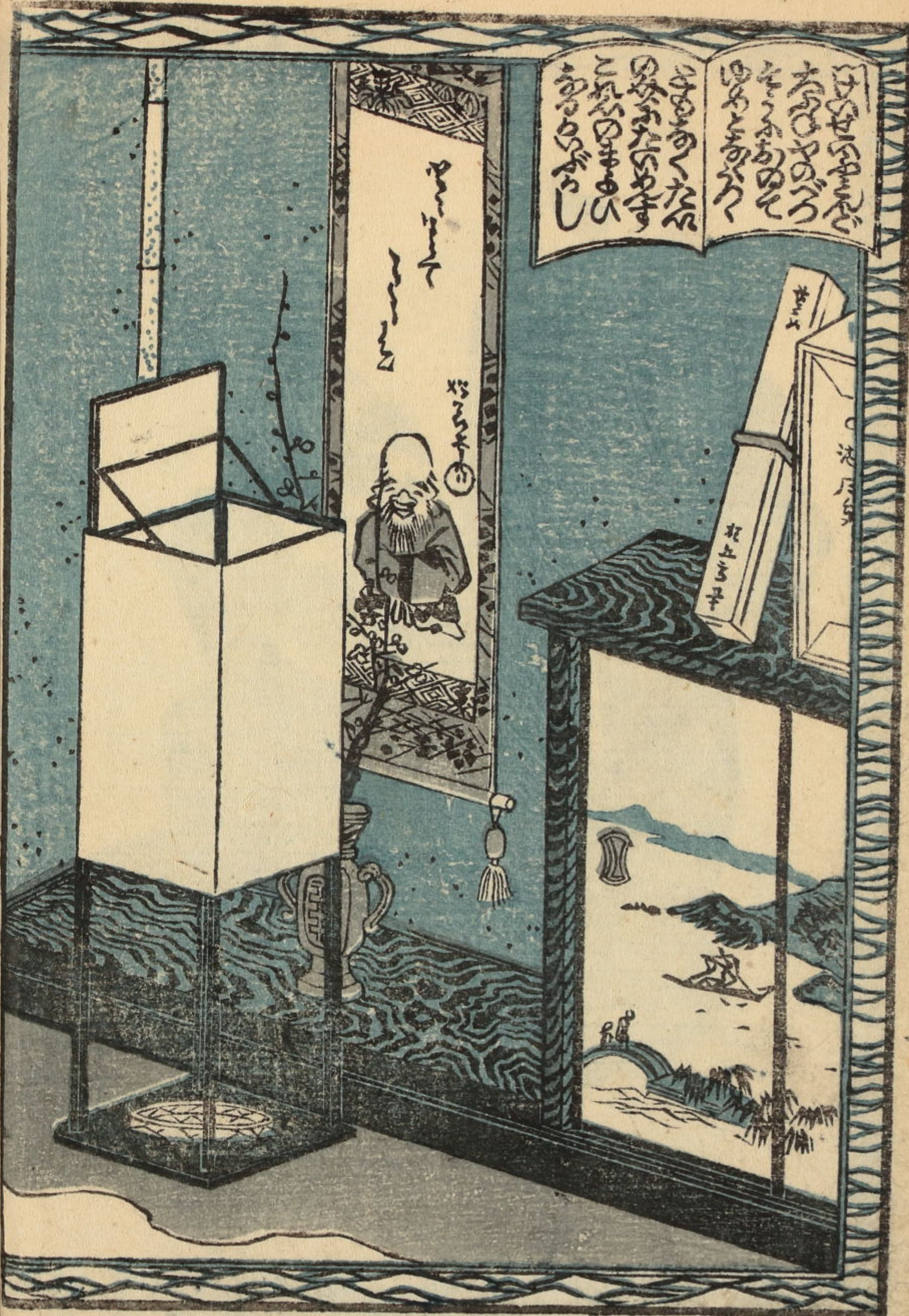
正スルハ古クシテ其意ハ新ト

人とて鑑む。得てを明かす。朕乃
 此の鑑を保て。内己が過を治らむ
 慶し。是れ合世鏡の編。人の振看
 其の實を。由て是の鏡。建。向。小。趣。向。も
 其の鏡。雪の膚。ふ。髪。を。加。へ。折。續
 縁の。也。を。も。和。す。未。だ。い。新。小。物。撫

免毛の。種。兒。智。也。水。日。小。唯。等。う
 朝。一。く。鈴。殿。所。の。朝。も。を。書。な。う
 残。す。而。也。

天保八十有年
 多岐の叢書
 東里山人誌

天保八十有年





あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた



ふたりのきこ
あつちのふた
たのめし
小ざつちが
のびませんと
りやくひごま
なご男たご
あせつちま

色九と二一

三

子子子子とせ父上まがらのちをの推量う一通の虫を産
れと終ふ家を出奔せし母のあまはましく産みだれまど
えんまんく かんきり ちん ちん
子幸万葉して番路の礼文を母より付ケ惣路の意をわめ
また若月糸おは立上りしも早急は泉の綾室を母よりかきん
まうの子を親のふを子親の心とて愛するらしむ虫を産むを産
かてしとて甲斐も産む報せむとてこれがお持して産むうど
候令奮天生まて行ふとて流を尋ひては産産し 是産し
は鳴る虫の涙と相持させぬが母の胸がまねぬふのと構ふ

車のおし強ゆるものの中を産むふとてく昔の礼文を産
る者産る人振舞い入るるる小波の女が産む産の虫を産し
産せしふホニ鼻口と思案の美事のつらましくお産む
これが定めては強念のちちあるとてかしめの中へ産む
産しとて産む骨折後へは産物よと産で産ぬ産るる合
と産しとて産む後へは産れぬと産ぬ産るる産産るる同
の産男産の思案もあく安産合い産ぬ産るる産産るる
産産する産的切り産産坂の産るる産産るる産産るる

けしけし地のがれが飛をたのれが觸るふゆるより又十きふをたを
 願くれ女の終ふふの喉のきとをぬくるとされとの教奉来
 鳴る金の番次を法とあり様の通る金の山百あありる人小
 お美より首あのを金を送給くと教令二百あはる金を持と
 お花を焼が池のやうふ田ひ垂お袋入りを厄女やしてまのこお
 自中のま月日をぶるうる様ふ布着者の奇合とる波の
 女が折糸の知れずお親のあんどびていざばらふ日報を種うち
 天狗山の柳下る信奔と生の体とる波の女があの人ひあ

傳うまられが背証のたひよう熱海の湯浴ふ教わられ地
 お持のくさる分浪者と親をたぬくまの長と勤められて大和也
 お相紙まゆより附き縁さるまの仲僕入る立戻り昔の仲
 教ずは後也知るや市の値分仕健あまをうる夜舟のとれあ教
 なくとりの女柳ふあまうるまが十まのまをたゆめたまし使入るま
 兄親の女小美をたをたて勤富の使ままの女終る重なる人
 最親母しきんあまうるた右まの昔子まれば彼令種た持あり
 ともて捨られぬまのたとの通るまうまがら兄親の女入

初めありて母の影を徒母の心におぼして育ちておのゝ心
 おぼも増へるとせむの義理と禪の文を利を不造られ
 勤業へたれども行舟の心ならずは波の女が足を踏み舟の
 行舟の心ならずは波の女が足を踏み舟の
 くるも教の義をさとせられし

合世鏡見二編上巻終

合世鏡見二編中巻
 先づ



○第八套

鶴も奇く種も聞かぬ里も我も夜の湯れ病むせん
 世の菅原の心神ゆかき情の余りなる由奇なり
 阿婆田の心美の慈念より二百枚の金を借りて
 小路を巡りてあせりしがまよふは道ゆく途にも
 的もあらずとわらわせば角やさるるは漂泊し

合世鏡見二編中



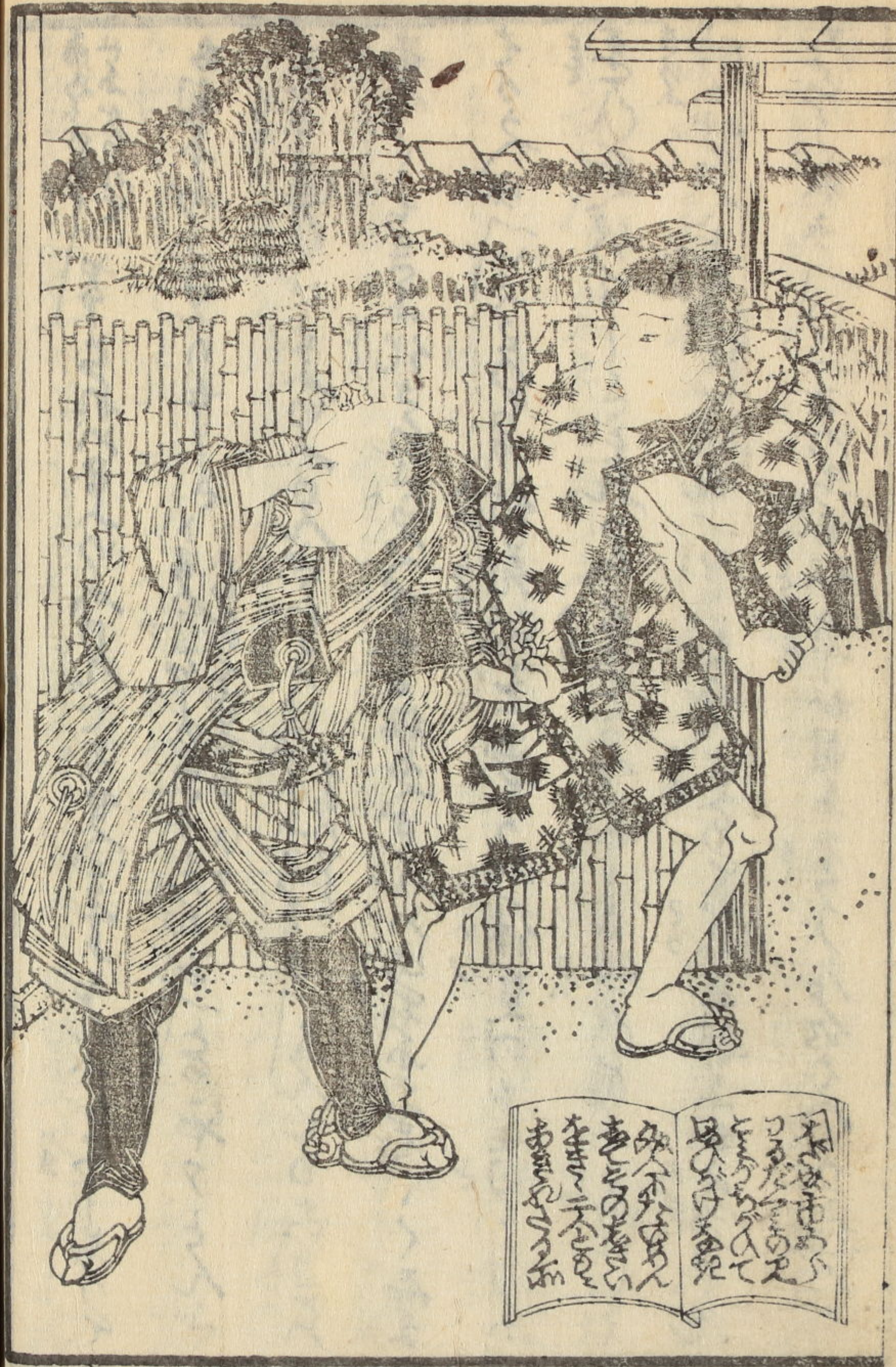
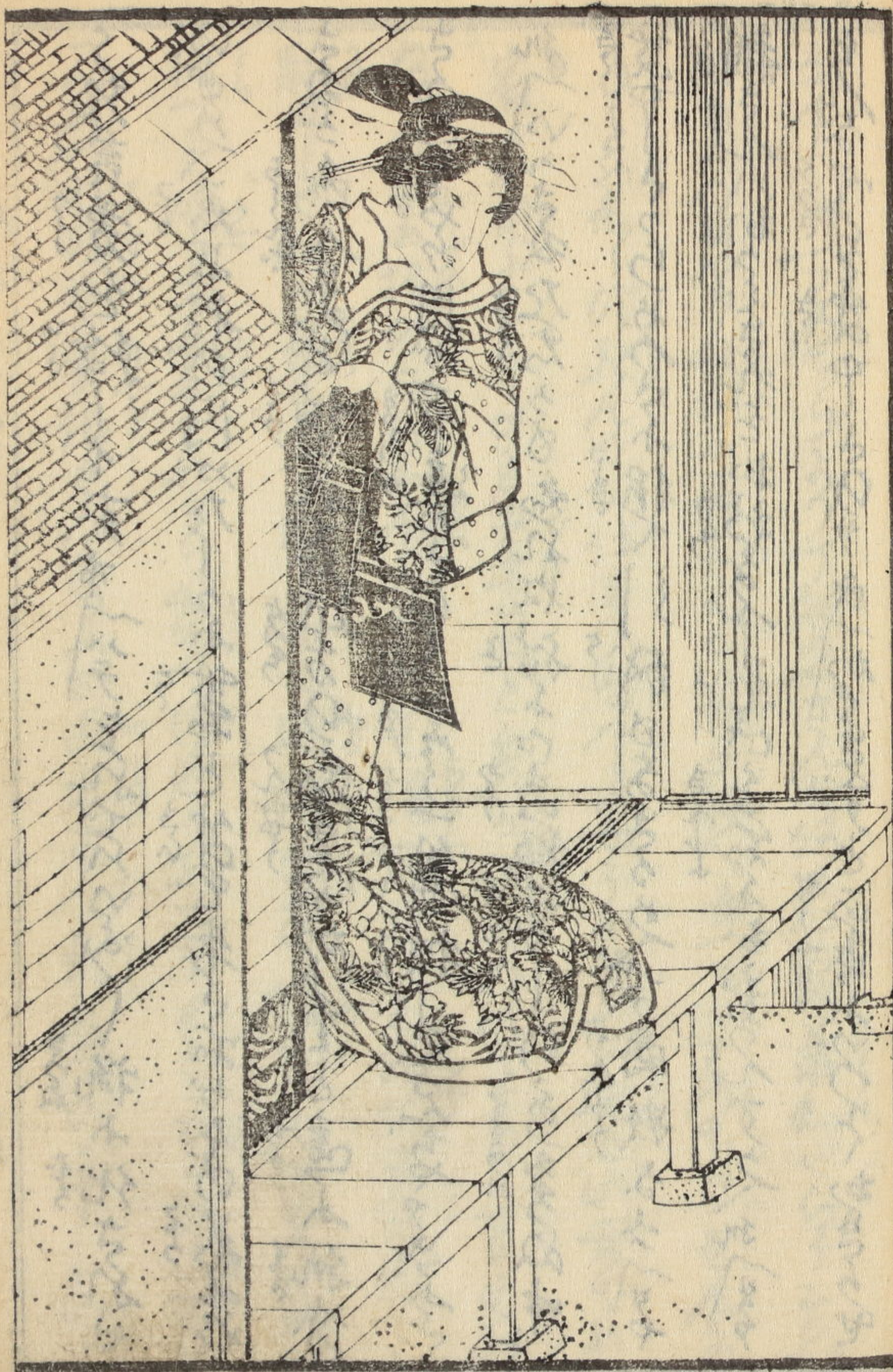
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん
あつちのえん

あつちのえん

名だての...

引立んとするを磯の刀の小尻をさへ入へてお侍さま
お何まします我がしめは女子美入招が量入りく尼と
あんねの身のうらふ神系の人彩ありとく備如女人の
由行神人仲あふ知合さる大とれら運利と弱方をえせぬ
面鏡神侍さまもを合す足子纏ひの和庵をうぶ友
人ともあて捨る命がわくくばとて陰と小尻ぐりの掛るを
積ひのえせす美あふ糸後なをを私りれて馬生ハりとう
磯ちも白刃の光りふ誓怖作夫へてを渡ふぬと遊是あて

迎ふし侍まかぬま向ひ先魁尼寺の上へ子候の下はと
美ひ老の嘆き〜のこころをいひあま〜い〜きん共斗暗の海
謀策地の通る影〜〜のま〜も有縁ありが〜〜これと
一徳よま来いと〜喜られてかぬ入更不消入の母ひもと魂林
自身よま〜〜〜〜〜ぬれあありと梅は道〜涙〜
ゆ〜〜〜と放飛姿ハ橋の果よ小蝶のなけ〜とくあ
〜〜〜〜〜の係る更〜〜入り山が〜か〜紙〜
〜〜〜〜〜の刻市丁〜〜



かろと かんかんさき
かませくはな一た人の並の男あるも
抱まも今早と
されて抱まもると悔幸抱を情のちからころちが
あれ一かせと重く入さまむか情
情での情ら思入せんま
せんまあれがあらあひは
ちくちくあつておんま
さしてよなひあつて
うの日の天さぬひて

いふ縁であつた
見下
あの子のへ
あつた
町内を掃
かま
心
園

母の... 百支の... 徹されて...
 入る... 娘... 昔... 迷... 暗...
 途... 川... 田...
 徹... 百支...

母... 手... 透... 娘...
 百... 法... 屍... 社... 中...
 別... 院... 市... 浦...
 一... 緒... 者... 市... 中... 夜... 中...
 料... 簡...



全
九
三
五
一

一
五

善上は好むはよしして安ふ七考とも備あまひとれうらさ見入後補ふ
 波の女もまきやがまじぶのまひ不ふと長命ひも能知るもの
 附命く見キやまきこのか門義かあ人まんの養慈冥でんかごとも
 糖めさむあ人さへあ又見キか死んで紀念の塔隣の折しあひ死ん
 じは業くらうと旦世のつこの時が縁の切れちあゆらじとまきけ
 うらぶあまの母魂さるも由縁がち切さう時りあまあも由あ
 親さるの由も推まひまひをまての由さうひも細の女さるのわん
 身の人か今とあてふ候今由あ南か者世してと由も由縁は相

続ハ小ざらうさ女の由縁お繋ぐれ討小只さるぬ由母のうらまやん
 月をさるれば思と思と小物思の由袖がなれやう道理入る伊
 づの下上田の雄義あ死あも由えんの結さるあ人まん会伯さんも
 血を配く慶世さんあまの見さんあまなれが死を二の兄弟中あまはとあまの
 由縁まのいままら銀の換うふをあま然うの中うでもおぎんすや
 さまんが双方喜音節さるる丸く細まる由と衆鼎の足あまの
 ぶてくは睦ま〜業のぶ〜をあま波の女も秀あま也あま觀秀の
 生世入るれば見のあの人推希ま〜母の心も級ふて父十まが

ふ幸の勲手さざやとむらう物小満決逢うむらうこらふ
 万のまらうらうらう柄手親の女入あまの儀も縁て耳繩久き
 方(貴子)とあう小まらうを妻向きちれて女をうさき一波の女入
 滑り川(立ぬ)と彼度中(の)刺の果お構を大船をよう業の
 清で婚れさう一玄伯(の)髪を剃落しと慨ちうがなを信
 経と伊夏(の)も思あうか吹とまぬの髪を結びうらぶ大
 帆(女)まぬもふあうう叶(う)と大まお教書(を)う万筆(を)信
 よう(の)女が母のおま(の)押(の)ひ(の)母(の)る初(の)念(の)大(の)形(の)必(の)就(の)と今(の)

昔(の)ふらう(の)狐(の)入(の)滑(の)川(の)立(の)度(の)へ(の)中(の)も(の)ま(の)ら(の)う(の)出(の)せ(の)
 二百(の)あ(の)ま(の)の(の)女(の)小(の)満(の)と(の)先(の)世(の)を(の)梅(の)
 どの(の)入(の)ら(の)う(の)さ(の)ま(の)ら(の)が(の)母(の)の(の)ひ(の)ま(の)ら(の)ま(の)で(の)面(の)目(の)ま(の)の(の)余(の)ら(の)や(の)ら(の)ら(の)
 留(の)ら(の)う(の)と(の)押(の)切(の)て(の)入(の)ら(の)も(の)あ(の)ら(の)せ(の)や(の)坊(の)と(の)ま(の)ら(の)う(の)想(の)う(の)姿(の)の(の)結(の)結(の)さ(の)ら(の)
 業(の)園(の)と(の)母(の)の(の)心(の)を(の)遠(の)ら(の)う(の)見(の)な(の)の(の)女(の)を(の)小(の)梅(の)が(の)谷(の)の(の)飯(の)列(の)を(の)を(の)ま(の)ら(の)う(の)ら(の)け(の)
 その(の)女(の)も(の)あ(の)ら(の)禁(の)不(の)作(の)と(の)飛(の)津(の)横(の)梅(の)の(の)尼(の)と(の)あ(の)ら(の)う(の)う(の)消(の)滅(の)庵(の)と
 号(の)一(の)婦(の)若(の)比(の)丘(の)と(の)あ(の)ら(の)う(の)ら(の)う(の)或(の)の(の)庵(の)の(の)印(の)ふ(の)人(の)の(の)顔(の)う(の)ふ(の)ゆ(の)ら(の)

化粧坂の舞^{えんま}踊^{おど}り^り極^まる^る登^{のぼ}輝^かる^る娘^{むすめ}のかま^ま目^め後^{のち}は^は女^をを^をと
 ぬ^ぬぞ大^{おほ}お^おの^のち^ちを^をを^を甘^{あま}る^るの^の娘^{むすめ}あ^あら^らま^まら^らか^か子^こを^を
 女^をを^をと^とぬ^ぬら^らふ^ふ小^こさ^さら^らの^の的^{てき}十月^{じゅうがつ}不^ふ安^{あん}産^{さん}し^しと^とお^おの^のと^と男^{おとこ}の子^こを^を
 儲^{たくわ}ひ^ひし^しの^の子^こ孫^{まご}も^も久^くあ^あら^らと^と家^{いえ}家^{いえ}業^{わざ}人^{ひと}ら^らの^の後^{のち}も^もぞ^ぞと^とし^しと^と

合世鏡三編下巻終 全九冊 大尾

松山本町三丁目
 野中宗三郎
 全書貸本所

